

# 日本遺産広域認定後の新たな取組み



水城跡土星

ありませんが、「水城」のそれぞれのエリアという点をつないで線を作り、さらに面的に広げていくことで、大きな課題に決着をつけたいという夢を抱いているのです。この福岡県が誇る歴史小説・推理小説の大家である松本清張氏ですが、幾度も映画化され、時代を超える名作が先述した『点と線』です。その続編というべき作品が、『時間の習俗』といふ小説です。北九州市門司区の和布刈神社で旧正月の夜に執り行われる和布刈神事の状景が鍵となつたサスペンスミステリーです。犯人の完璧なアリバイと巧妙な

「水城跡」は昭和50年に九州縦貫自動車道建設に立つて、福岡県教育委員会による発掘調査が開始され、現在では九州歴史資料館と大野城市・太宰府市が構造解明と特別史跡としての保護・整備に取り組んでいます。この保護の取組が昨年度、広域認定を果たした日本遺産「古代日本の『西の都』（東アジアとの交流拠点）」に結実したもので、「水城跡」はその代表的な構成文化財です。

小中学校のすべての教科書には、この「水城跡」のこと



上大利小水城跡と水城跡・大野城跡

私はこれまでにも「水城跡」について県議会で幾度も取り上げてきました。特に史跡として保護されている意義と、歴史的価値がかけがえのないものであることを強く訴えてきました。『日本書紀』には、今から1350年前の西暦664年に「筑紫に大堤を築き、水を貯えしむ。名付けて水城といふ」と記述がなされています。その名称と遺構は、悠久の時を超えて現代まで大切に残された稀有な遺跡なのです。遺跡の国宝といえる國の特別史跡に指定されています。

が記載され、663年の白村江（はくすきのえ）の戦いの後に大宰府の防衛のために山城や水城を築いたとあります。古代における一大国家事業の記念物として重要ですし、記述だけではなく歴史の生き証人でもあつたのです。まさに市民が誇る歴史遺産です。

現在では、この「水城」は朝鮮半島の新羅からの侵略に対する防御的な性格で築造されたことは定説です。しかし、この「時間の習俗」が書かれた昭和30年代前半は、まだ「水城跡」の発掘調査も実施されたことはなく、研究も進んでいませんでした。

私は福岡県が生んだ作家松本清張氏の誕生日100周年を記念した作品集の小説と映像に取り憑かれています。そこで「水城跡」が登場する小説を題材に取り上げることにします。

「水城跡」は昭和50年に九州縦貫自動車道建設に先立つて、福岡県教育委員会による発掘調査が開始され、現在では九州歴史資料館と大野城市・太宰府市が構造解明と特別史跡としての保護・整備に取り組んでいます。この保護の取組が昨年度、広域認定を果たした日本遺産「古代日本の『西の都』（東アジアとの交流拠点）」に結実したもので、「水城跡」はその代表的な構成文化財です。

令和3年1月号では、「日本遺産広域認定後での新たな取り組み」で四王寺山への展望台設置について述べました。今回はさらに歴史的遺産を掘り起こすための寄稿文として「水城」を取り上げます。

## 水城みずき

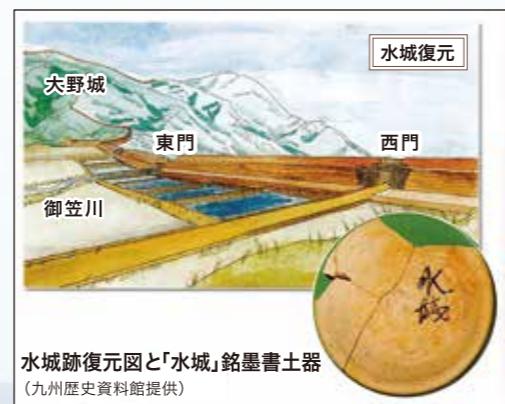
この「水城跡」は長大な遺構で大野城市と太宰府市、そして「小水城」という一連の土壘が春日市に所在しています。水城本体は大野城市と太宰府市にまたがります。

地からの回遊性の確保が大きな課題となっています。

この「水城跡」は、敵の侵攻を防ぐ目的で築かれていましたので、この地域の最も狭い平野部1・2キロメートルを横一文字に塞いでいます。ここは交通の要所といえる場所ですので、現在でも九州自動車道や国道3号線、2本の県道、西鉄線路やJR線路が通過しています。

「水城」は各種の交通路によつて分断されて西門エリアから東門エリアまでを行き来出来ないので、これでは長大な水城のスケールを感じることができます。

ところが、これら拠点施設をつないで水城跡全体を安全に廻ることは不可能となつており、他の史跡や市街見学の拠点として整備したところです。

水城跡復元図と「水城」銘墨書き土器  
(九州歴史資料館提供)

分断されたエリア間をつなぐために長期的な展望の中で課題を把握して時間の経過とともに変化していくさまざまな状況に柔軟に対応していく必要があります。

多くの交通路はもともと開いていた御笠川付近をうまく活用しているのですが、JR鹿児島本線は今から約130年前の明治22年（1889年）、博多駅と筑後川北岸の千歳川仮停車場間で九州鉄道として開通しました。線路工事のためにこの

私は、線路によつて分断されることになつた水城の土壘を、もう一度繋いで、往来できるようになりたいのです。まず駅舎の東西を行き来可能な自由通路を設置することにより水城の土壘の規模の大きさとその長さを感じ、悠久の歴史に思いをはせることができます。

私は、線路によつて分断された駅舎を改築して筑豊の田川伊田駅のように寝台列車をシンボライズしたようなホテルを併設してはどうかと考えています。日本遺産「古代日本の西の都」のゲストハウスとして、多くの旅行者が周遊する拠点となれる事を期待しています。

松本清張氏の「点と線」では

ところが松本清張氏は、この小説の中で先ほどの『日本書紀』の一説を引きながら、水城は古代において大陸から攻めてくることを想定した防衛戦であることを明確に説明しています。同時に大宰府政庁跡や觀世音寺についても分量は少ないので、詳しい描写がみられるなど、當時の大宰府周辺の景観を知る上で参考となり、小説としてだけでなく歴史の資料として価値があると思います。松本清張氏は古代史への関心が高く、その歴史の関心を喚起し、学界にも刺激を与えたと評価されています。